

横浜市 歴史博物館 NEWS 4 1996・9

- ◇復原進む「旧長沢家」住宅
- ◇いんたびゅー／桂 歌丸
- ◇企画展「縄文文化誕生」
- ◇港北ニュータウン地域の暮らしと講中
- ◇「紀要」第1号を刊行
- ◇収集資料の紹介〔6〕黒漆十稜花食籠
- ◇＜常設展示室探検＞歴史劇場
- ◇横浜考古学講座 体験学習ー作って遊んで歴史にふれる
- ◇先人たちの日常品を現代の日常品にーミュージアムショップオリジナルグッズ
- ◇＜知ってますか？＞カブリコーン

横浜市では、横浜市歴史博物館野外施設の一つである江戸時代の民家「旧長沢家」の復原建築工事を進めています。「旧長沢家」は港北ニュータウン地域の北部、都筑区牛久保町にあった旧家です。現在、博物館の北方に長徳寺というお寺がありますが、その向い側の山裾がかつて長沢家が建っていたところです。長沢家は、江戸時代には牛久保村の名主や組頭を務めていました。主屋の形式は土間に面したザシキ（座敷）が表側から裏側まで通ったいわゆるヒロマ（広間）型で、さらには主屋と馬屋が平行に並ぶ武蔵国南部の特徴ある形式を持っています。建築年代は江戸時代



写真1 建て方

修繕が終わった柱や梁を組み合わせながら建てていきます。かつては人間の力だけで行いましたが、現在ではクレーンを使います。

復原進む 「旧長沢家」住宅

中頃と想定されています。

かつての民家は調達しやすい材料で建てられています。長沢家の柱や梁は杉と松が使われており、それらはこの地域で調達されたものです。「谷戸」の地形だった港北ニュータウン地域では用材として用いられる杉や松が生産されていません。屋根に使う茅は、カヤバと呼ばれるムラの共有地で管理されました。このほか屋根や土壁の下地に使う竹材、茅や竹を縛る縄など、ほとんどの材料が地域でまかなうことができたのです。

さて、復原工事が始まってから一年あまり、これまでに損傷部材の修繕、建て方、土壁、屋根の茅葺きが終わりしました。これからは内装工事へと進み、来春には一般公開の予定です。



写真2 茅葺き

屋根の茅葺きを行う横浜市の職人の数は非常に少なくなりました。そこで作業は埼玉県のベテランの職人さんがあたりました。使用した茅はおよそ6300束、2トントラックで15台分を栃木県から取り寄せました。



写真3 土壁

土壁は、木舞（竹を組んだ下地）の上に、三和土と呼ばれる土を塗っていきます。三和土は粘土にわら・にがりを混ぜたもので、乾くと非常に頑丈になります。古い民家の土壁や土間にはこの土を使います。

博物館は見聞広める“参考書”

◎まず、横浜市歴史博物館の感想をお聞かせください。
 今までいろいろな所で、こういう博物館を拝見していますが、これほど立派なものがそろい、しかも、よく分かるところで、うれしく思いました。横浜にこんなすごい歴史があったのかと、初めて認識しました。

◎落語家という立場で、何か感じられましたか。

たとえば、神奈川宿にあった茶屋「桜屋」の模型がありますね。落語にも「大山詣り」などいくつかの噺に神奈川宿が出てきますから、その中でなにかの折りに、こういうところがあった、こういうふうだった、など入れることができると思います。私は「竹の水仙」といって、左甚五郎が一文無しで宿屋に泊まり、宿賃の代わりに竹の水仙を彫る、という噺をやりますけれど、場所の設定が噺をなさ



る方ごとに違いまして、私は横浜の人間ですから、甚五郎が神奈川宿に泊まる、という話に変えています。宿屋の主人が名所に誘う場面があるものですから、付近の名所旧跡を一応調べまして、金沢八景にしました。

調べた歴史を軟らかく

◎落語のために、歴史について調べることが多いのですか。
 調べなくてはならないのです。もしも質問された時に困りますから。ただ広く浅くです。落語では、あまりこまごましない、専門的なことを話すと、聞いている方が分からなくなりますが、調べたことをアレンジをして、硬いものもある程度軟らかくして、できる限り、分かりやすくしゃべるようにしています。

◎落語によく登場する江戸時代の庶民について、どう思いますか。

大ざっぱに言えば、今の我々の文化の元をつくった人たちではないか、という気がします。江戸の文化で、現代の我々の生活の中でも数多く取り入れているところがある、いや、あったのです、ついこの間まで。今、江戸の庶民の生活様式、あるいはもうもののことの、研究のし直しが必要だと思います。私が落語のために江戸時代について調べる時、野村胡堂先生の小説『銭形平次』を参考にしています。長屋の風景にしろ、長屋の人々の生活にしろ、あるいは武士の生活、商売の仕方、旅の仕方などに、ものすごく詳しい。それを読んでいると、お店なり、長屋の風景が頭の中に思い浮かんでくるのです。そういうことを全部、私の落語に取り入れています。

焼け野原を思い出す

◎横浜市歴史博物館の展示を見て、昔の横浜について何か思い出したことはありませんか。

ありますね、五〇年前の写真を見て、戦後、焼け野原になったこととか。あの時、私は疎開をして千葉にいましたから、横浜の上空襲を向こう側の千葉から見えました。終戦になってすぐに帰ってきましたけれど、本当に焼けて、何にもなくなっていた。それがまさか、こんなに発展するとは思わなかった。ものすごい発展の仕方です。いい意味で発展するのは絶対にいいことですけども、悪い意味での発展は困る。特に、これ以上の環境破壊はしてもらいたくないですね。

自国の歴史を知らない日本人

◎この博物館への要望はありますか。

今も拝見して勉強になりましたけれど、もっともっと細かいものをそろえて、見せて、そして教えてもらいたい。そうすればもっともっと横浜の歴史が分かり、それにつながって日本の歴史が分かってくると、私は思います。今の日本人は日本人でいながら、日本の文化、芸術、そういうものを知らない、外国のことはよく知っているのに。これは大変な間違いですね。自分の国のことを頭に入れてから、他国に目を向けるべきだと思います。日本について見聞を広めるには、この博物館は参考書です。もっと多くの市民がここに通って、横浜の歴史をもっと勉強したり、あるいはこの館を通じて、分からないこと、疑問に思うこと、自分の意見を出し合ったり、情報の交換をし合うと、いいと思います。

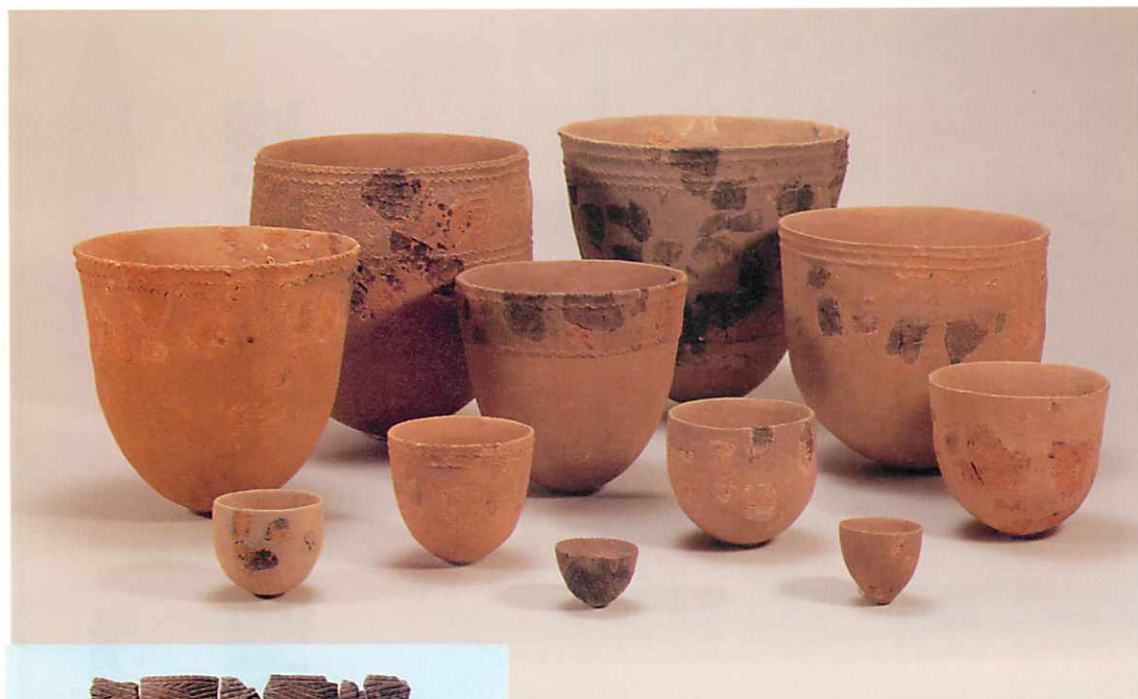
◎かつら・うたまるプロフィール◎

●横浜市南区に生まれる。市立吉田中学校に在学中、一九五一年に落語家桂米丸師に入門し、高座、テレビ、ラジオにと幅広く活躍している。一九八九年、文化庁芸術祭受賞。一九九一年、市内での落語の公演や地道な福祉活動など多方面にわたる功績により横浜文化賞を受ける。
 一九七四年から独演会を続ける三吉演芸場の閉鎖の話がもたらした際、六五年間、横浜の大衆演芸を支えてきた演芸場をせひ残したいと、三吉演芸場を残す会と会長として存続に尽力した。財団法人横浜市ふるさと歴史財団評議員。

特別展

縄文文化誕生

「都筑区花見山遺跡が解き明かす最古の土器文化の謎」



花見山遺跡出土土器（横浜市歴史博物館蔵）



山形県一ノ沢岩陰遺跡出土土器（佐々木洋治氏蔵）

土器は、人類の最も重要な発明の一つといわれます。土器の出現は、長い人類の歴史における大きな画期であり、人々の生活を変化させた原動力にもなったと考えられます。

日本列島の中で土器が使われ始めたのは、およそ一万三千年前。これは、現在までに知られている世界最古の土器文化の一つであると同時に、以後一万余年の長きにわたり続いた縄文土器・縄文文化の誕生を告げる、歴史上たいへん重要なできごとでした。

一九七七年、七八年の二ヶ年にわたり、港北ニュータウン埋蔵文化財調査団（現在の埋蔵文化財センターの前身）によって、横浜市都筑区の花見山遺跡が発掘されました。この発掘調査の結果、珍しい土器出現期の遺構・遺物が、数多く発見されたのです。復元土器三二個体を含む、土器・石器、約三千点に及ぶ資料は、その質・量ともに全国でも屈指のものです。それは横浜市中心の縄文時代の幕開けを告げるだけでなく、日本列島における土器出現の背景、縄文文化誕生の謎の解明に欠かすことのできない貴重な資料といってよいでしょう。花見山遺跡出土土物は、平成七年十一月、横浜市指定文化財になりました。

特別展では、この花見山遺跡出土資料を中心に、北は青森から南は鹿児島まで、日

本列島各地の土器出現期の資料、二千五百点を展示する予定です。日本列島における土器出現の背景や、出現期の土器の製作技術、土器出現による人々の生活の変化を追いつながり、縄文文化誕生の謎に迫ります。世界最古級、一万余年の時の重みを、ぜひ肌で感じてください。

【展示構成】（予定）

- ① 花見山遺跡の発掘
- ② 花見山遺跡の出土遺物
- ③ 気候の変化と土器出現の謎
- ④ 出現期の土器の様々な顔
- ⑤ 土器出現期―遺跡の旅―
- ⑥ 日本列島最古の土器を求めて
- ⑦ 東アジアの中の縄文文化のはじまり

【主な展示物】

- ・ 横浜市花見山遺跡出土資料（横浜市指定文化財）
- ・ 東京都前田耕地遺跡出土資料（重要文化財）
- ・ 大和市上野遺跡出土資料（神奈川県指定重要文化財）
- ・ 青森県長者久保遺跡出土資料
- ・ 山形県一ノ沢岩陰遺跡出土資料
- ・ 新潟県室谷洞窟遺跡出土資料
- ・ 長崎県泉福寺洞穴遺跡出土資料
- ・ 鹿児島県掃除山遺跡出土資料



青森県表館（1）遺跡出土土器（複製）
（青森県立郷土館蔵）

港北ニュータウン地域の 暮らしと講中

博物館では平成八年四月二七日から六月二三日まで企画展「港北ニュータウン地域の暮らし」を開催し、二万五千人あまりの方々にご覧いただきました。

この展覧会では、博物館の収蔵資料を中心に、地域の方々のご協力をいただいて借用した数多くの資料を展示しました。なかでも地神講の関係資料は展覧会の核となる資料で、多くの講中の方々にご協力をいただきました。

地神講は、ジンサマ（地神様）、ジノカミサマ（地の神様）、サクガミサマ（作神様）と呼ばれる、土地、つまり土を耕す農業の神様を信仰の対象としてきた講です。港北ニュータウンの開発が行われるまでのこの地域では、農業を生活の基盤としていましたので、地神講はたいへん盛んでした。講は、経済的、社会的、信仰的な目的を達成するために結ばれた社会集団の一つで



地神講のおまつり（大棚町上講中）

す。経済的な講では頼母子講、無尽講、膳碗講、屋根講など、信仰的なものでは富士講、榛名講、稲荷講、庚申講、二十三夜講、念仏講など、多種多様な講がいくつもありました。どの講も農業を中心とした生活のサイクルの中にとけ込み、ふだんの暮らしを支える行事として維持されてきたのです。しかしながらこれらの講は、近代化による生活様式の変容、港北ニュータウンの開発にともなう生業の変化、さらには居住の移転などによって地縁的な結びつきの解体が進み、だんだんと少なくなりつつあります。現在この地域でみられる講は、地神講や大山講など、一部の信仰的な講だけとなっていました。

地神講の調査中にはいろいろなお話を伺わせていただきましたが、共通して後継者の問題があげられていました。それは、かつてのように農業を中心とした、地に根ざ

した生活のサイクルは失われ、外に働きに出ることが一般的になってしまったため、講の世界と暮らしの姿が乖離してしまっただけです。今回の展示にご協力いただいた講の中にも、すでに解散してしまったり、解散を検討されているところもありました。

「若い世代（この場合は現在四〇〜五〇歳の働き盛りの方々を指しています）が継いでくれればねえ」というお話のなかに、現代に講が存在していく意味と難しさをあらためて考えさせられました。

今回の地神講の資料調査・借用にあたっては、都筑区の池辺町星谷下庭講中、牛久保町下講中、大熊町谷戸講中、大棚町上講中、折本町氷川講中、勝田町狭間根講中、北山田町稲荷谷戸講中、北山田町神無講中、茅ヶ崎町下向根講中、茅ヶ崎町三組地

『横浜市歴史博物館紀要』を創刊！

博物館では展示のほかに、資料の収集や調査研究、文化財に関するさまざまな情報の収集、体験学習などの活動を行っています。それらの成果は展示や講座、また資料集などを通して公開しています。そのひとつとして研究論文や資料の紹介を載せた『紀要』第一号を刊行しました。

またこれを通して横浜の歴史や文化財についての情報を全国各地の博物館などに紹介し、逆に各地の情報を提供してもらう役割を果たすことも期待しています。第一号には次のものが掲載されています。

創刊にあたって

平野邦雄

横浜市歴史博物館の基本テーマ

論文

井上 攻

天保飢饉時の神奈川宿

岸上興一郎

留吉老人の唄―横浜柴の漁撈文化―

研究ノート

曾根勇二

豊臣政権における東国侵攻について

資料紹介

斉藤 司

「松雲院様熱海御入湯一巻」について

神講講中、茅ヶ崎町四組地神講講中、中川町下講中、中川町中村講中、中川町宿之入講中からご協力をいただきました。

黒漆十稜花食籠



古代・中世に中国や朝鮮半島・南アジアから輸入された様々な物品を日本では唐物と総称しました。唐物の輸入は、平安時代の終わり頃からますます盛んになり、陶磁器・錦・香などが輸入されました。唐物漆器と呼ばれるものもそのひとつで、禪宗寺院や公家・武家社会での座敷飾りや茶道具としてばかりではなく、贈答用品としてもたいへん重宝されたのです。

中国で漆器が一般に流布しはじめるようになるのは、宋時代のことです。これ以降、元・明時代に盛んに漆器はつくられていました。これらの漆器はおおよそ、無文漆器、堆朱・堆黒といった彫漆類、鍍金、螺鈿の四種の技法によるものに分類されます。

黒漆十稜花食籠は、器全体を十弁の稜花形にととのえた合口造りの蓋物で、器体の外部・内部とも黒漆塗りとし、錫縁を全体にまわした器形をとっています。中蓋があることから、食物をいれるのに使った食籠と考えられます。また、器体が藍胎(木

や竹を編んだもの)であることから元時代に中国江南地方でつくられたものと思われます。

この食籠のように、朱漆や黒漆などの彩漆を器面にほどこし、その他一切の加飾をもたない漆器を一般に無文漆器と呼びならわしています。この種の技法は、漆工芸のなかではもともと初歩的なもので、すでに先土器時代から行われていますが、宋時代になると上層階級の日常用品として普及するようになります。そして元時代には最盛期を迎え、数多くの優品がつくられました。器皿の形には、円形、長方形、正方形、六角形をはじめ六花形・八花形、輪花形・稜花形などいろいろありますが、元時代の無文漆器の形で頻繁に見受けられるのは輪花形と稜花形のふたつで、その中でも特に稜花の形がこの時代の人々に好まれました。

黒漆塗りの器体に錫縁をまわし、ふっくらと丸みをおび破綻のない器形は、他の同時代の稜花形の無文漆器には見られない優美さと高い製作技法を今に伝えています。

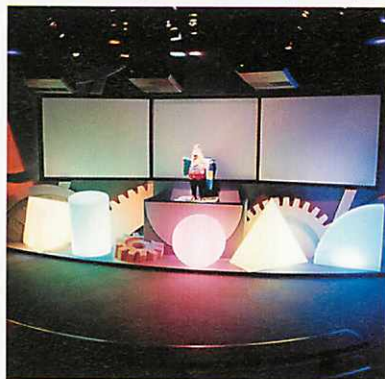


常設展示室探検

歴史劇場

常設展示室を入ると、左側に歴史劇場があります。劇場に足を踏み入れると、三面のマルチ・スクリーン、砂時計などをイメージした壁の装飾、多角形のアクリル製のオブジェが目にとまり、異空間に入り込んだような感覚を覚えます。

この歴史劇場では、約一五分で、原始から現代までの二万年に及ぶ横浜の歴史を旅することができます。実写をはじめ、コンピューター・グラフィック、ジ



オラマなど各種の映像や技法を駆使し、横浜の歴史を身近に、生き生きと体験できるようにしています。

歴史旅行の案内役は、時間を把握する役割を与えられたオナガドリです。高知県産のオナガドリは、近代のはじめ、横浜港から欧米諸国へ数多く輸出されたため、「ヨコハマ」と呼ばれていました。このオナガドリのロボットが皆さんを時空を超えた旅にご案内します。

横浜市歴史博物館にいらしたら、ぜひ一度、この歴史劇場で横浜の歴史旅行を楽しんでください。

歩いて、学んで、 地域の歴史

◎体験学習

作って遊んで歴史にふれる

博物館では、毎月第二あるいは第四の土曜日と日曜日を中心に小学生を対象にした催しものを開催しています。

今年度は、今までに小田原ちようちんづくり・ぞうり編み・土偶づくり・鶯笛づくり・竹皮ぞうり編みを学習しました。講師は、博物館の学芸員のほかに、都筑区内の



農家のお年寄りや各地の専門家にお願いしています。

自らの手を使いながら、時には上級生と下級生が互いに助け合いながら約二時間。完成した作品を前にして、子どもたちの満足した様子は、とても印象的でした。編み上がったぞうりをはいて館内を得意顔で歩き回る子、ノコギリやナイフで危なげに竹を削りながら作った鶯笛を調子をつけて吹く子など、学校生活ではできない楽しい体験を味わったようです。

今年度からは、大塚・歳勝土遺跡公園の開園に伴い、野外施設の「工房」でも体験学習を行うことになり、早速六月には緑に囲まれた工房で、縄文時代の土偶づくりに挑戦していました。

◎横浜考古学講座

港北ニュータウン 発掘二〇年の成果

五月二四日から七月二六日までの毎週金曜日に、岡本勇先生と埋蔵文化財センター職員による「横浜考古学講座」が研修室において開催されました。定員の三倍を超す応募があり、抽選の結果、六〇代の方々を中心とした五〇名が受講しました。

昨年の講座は、当館の学芸員による「横浜の歴史―常設展示を中心に―」でしたが、今年は博物館に隣接する大塚・歳勝土遺跡公園が三月二三日に公開されたのを記念して行いました。

講座は、昭和四五年から二〇年を費やした港北ニュータウン地域の二六八遺跡の発掘調査による数多くの重要な成果を中心に、次の標題と講師によって時代順に進め

られました。

- ① 港北の遺跡と「遺跡群研究」(岡本勇)
- ② 旧石器と最古の土器(坂本彰)
- ③ 横浜の貝塚(小宮恒雄)
- ④ 縄文時代の集落(石井寛)
- ⑤ 縄文社会の爛熟(石井寛)
- ⑥ 港北の農耕集落の出現(武井則道)
- ⑦ 弥生後期の地域圏と古墳の成立(小宮恒雄)

⑧ 古墳時代の集落と墳墓(鈴木重信)

⑨ 古代の都筑(鈴木重信)

⑩ 中世の鍛冶・城と近世農家(坂本彰)

毎回、予定の終了時刻をオーバーするほどの熱のこもった講義で、受講者からの質問も多く、長期間の発掘調査に基づいた説得力のある内容は、多くの受講者に遠い祖先の人々の暮らしを身近なこととして、受けとめていたのではないのでしょうか。

港北ニュータウンの発掘調査の整理・報告作業は、まだ多くが残されています。今後とも、その成果の公開に期待していただきたいと思っています。

ニュータウン 20年の成果



Museum Shop Original Goods ミュージアムショップ オリジナルグッズ

先人たちの日常品を 現代の日常品に

てぬぐいは、近年になって、吸収力のあるタオルが使われるようになって、すっかり見かけなくなりましたが、濡れたからだや汗を拭いたりするだけでなく、頭にかぶって暑さをしのいだり、湿布や包帯がわりにするなど、さまざまな使い方がされていました。

オリジナルてぬぐいは、当館所蔵品の縄文土器、人物埴輪などをもとにデザインしたもので、八種類あります。ぜひ、お好きな柄を選んでいただいて、自分なりの使い方を探してみてください。



縄文時代の人々のすぐ身近にあった、生活に深くかかわりのあるものを、アクセサリーにしました。

ひとつは、都筑区の権田原遺跡から発掘され、常設展示室に展示してある縄文時代のペンダント、そして、縄文人の主食であったドングリ、クリ。この三種類を金・銀・青銅メッキで仕上げました。歴史博物館ならではのアクセサリーです。オリジナルグッズのほかに、企画展の関連書籍などもそろえてあります。見学のおりには、ぜひミュージアムショップにもお立ち寄りください。

◆今後の企画展のお知らせ◆

◆縄文文化誕生

10月5日～11月24日

都筑区花見山遺跡から発見された縄文時代のはじめ頃の資料を中心に、縄文文化誕生の謎に迫ります。

◆横浜市蔵 江上コレクション特別公開 (仮題)

1月28日～2月23日

考古学者江上波夫氏から横浜市に寄贈されたユーラシア大陸全域にわたる、土器・石器・金属器・陶器・ガラス製品等のコレクションの一部を公開します。

◆近世横浜の景観 (仮題)

3月8日～4月6日

江戸時代、市域の村々ではさまざまな経緯によって村絵図が作成されました。この企画展ではそうした村絵図を中心に、当時の景観を紹介していきます。

◆神奈川湊と海の道 (仮題)

4月26日～6月15日 (予定)

江戸時代における江戸内湾の中核的な湊の一つであった神奈川湊を介して、横浜市区および周辺地域の庶民生活や流通システムを考えていきます。

????? 知ってますか?????

コーヒーレストラン「カプリコーン」



じっくりと展示室を見学した方も、のんびりと歴史公園を散歩した方にも、ぜひ立ち寄っていただきたいのが、コーヒーレストラン「カプリコーン」です。博物館には皆さんの見学のための休憩施設として喫茶室があり、食事のメニューも多いことから、開館以来、喫茶室というよりはコーヒーレストランとして多くの来館者に親しまれてきました。「カプリコーン」とは英語で山羊座 (Capricorn) の意味です。

「カプリコーン」ではコーヒーはもちろん、ランチなどの食事をとることができますが、なかでも、歴史をイメージしたユニークなメ

ニュー「博物館三品物語」はおすすめてです。地層をイメージした「博物館ライス」や、山をイメージした「博物館丼」(みそ汁付)、そして貝塚をイメージした「博物館スパゲティ」は、食事をしながら歴史を感じさせてくれる三品です。他にも、11時30分からの限定品の日替りランチ (火曜日～金曜日) や、好評の和風うどんもおすすめてです。

30席ほどの小じんまりとしたスペースですので、土曜・日曜・祭日は込み合う時間もありますが、どうぞお気軽にご利用ください。

営業時間 10時から17時
休業日 月曜日・祝日の翌日 (博物館と同じ)

横浜市歴史博物館 日誌

(96年4月1日) 96年9月30日

- 4月6日 4月のハイビジョンシアター (土・日・祝日上映) 「大和路・万葉の花」、ビデオシアター「東海道と横浜」(6・7日上映)、「八幡様と水神様の例祭 (中川町)」 「遙かな昔の面影が漂う『鯛釣り踊り』と大塚・歳勝土遺跡 (大塚町)」(4月13日から土・日・祝日上映)
- 4月7日 企画展「東海道と神奈川宿」終了 (観覧者 11,689人)
- 4月13・14日 体験学習「小田原ちようちんづくり」
- 4月27日 企画展「港北ニュータウン地域の暮らし」開催 (6月23日まで、観覧者 25,473人)
- 5月3日 5月のハイビジョンシアター (土・日・祝日上映) 「黄金のエジプト王朝-ファラオの夢」、ビデオシアター「回地蔵と花籠の舞 (池辺町)」 「梅匂う里の菊づくり (佐江戸町、他)」
- 5月4・5・18・19日 体験学習「わらそうり編み」
- 5月24日 「横浜考古学講座-港北ニュータウン発掘20年の成果」(7月26日まで毎週金曜日連続10回)
- 5月25・26日 体験学習「まがたまづくり」
- 6月1日 6月のハイビジョンシアター (土・日・祝日上映) 「北京千年王城」、ビデオシアター「虫送り-夏の早刈川を彩る祭」 「まつり囃子がきこえる (港北ニュータウンと茅ヶ崎町)」
- 6月8・9日 体験学習「わらそうり編み」
- 6月22・23日 体験学習「土偶づくり」
- 7月6日 「コレクションに見る写真の歴史1-光をつかまえる」開催 (21日まで、観覧者 3,620人)
- 7月6日 7月のハイビジョンシアター (土・日・祝日上映) 「大英博物館ダイジェスト版」 「柏崎グラフィティ-小竹忠三郎絵はがきコレクションから」
- 7月31日 <ふるさと横浜探検1> 大塚・歳勝土遺跡公園と遺跡発掘現場の見学
- 8月1日 夏休みスタディサロンミニイベント「歴史着せ替え人形」(8月中の火、木曜日)
- 8月3日 「収蔵資料展1-旅・東海道・金沢八景」開催 (9月8日まで、観覧者 10,589人)
- 8月3日 8月のハイビジョンシアター (土・日・祝日上映) 「ロスト・アニマルズ-ハイビジョンで甦る絶滅動物たち」 「聖の心を伝える柿本人麿・雪舟-その生涯と謎を検証」
- 8月10・11日 体験学習「まがたまづくり」
- 8月24・25日 体験学習「土偶づくり」
- 9月1日 9月のハイビジョンシアター (土・日・祝日上映) 「韓国国宝の旅-幻の青・心の白-」
- 9月14・15日 体験学習「竹皮そうり編み」
- 9月25日 <ふるさと横浜探検2> 国史跡朝夷奈切通と金沢周辺の歴史散歩

横浜市歴史博物館及び大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

●開館時間

午前9時から午後5時まで (ただし、入館は午後4時30分まで)

大塚遺跡を除く公園部分は24時間オープン

●休館日

月曜日、祝日の翌日、12月28日～1月4日
そのほか展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。

●常設展観覧料

区分	個人	団体 (20人以上1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	100円	80円

◆特別展・企画展の観覧料は、別に定めます。

◆第2・第4土曜日は、小・中・高校生は無料です。

◆「長寿のしおり」「敬老特別乗車証」「愛の手帳 (療育手帳)」「身体障害者手帳」「障害者手帳」をお持ちの方は無料です。

●案内図



[交通機関] 横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分

編集後記

博物館は横浜市の北部、港北ニュータウンの中にあります。周囲の道路も整備が進み、ビル建設が始まっています。日々変化する新しい街の中で、博物館は、原始から現代までの二万年の横浜を紹介しています。新しい横浜とさまざまな時代の横浜をご覧ください。新しい横浜とさまざまな時代の横浜をご覧ください。

